

# 「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 4 月 12 日

仕事の内容	協力指導員（チームティーチャー）配置事業				
担当部署・課長名	教育指導	課	指導	係	課長名 佐藤 洋士

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施策番号	1 - 1	-
【施策名】 学校教育の充実	総合計画書 (ページ)	31	

予算名	款 10 教育費	項 1 教育総務費	目 3 教育指導費	事業 11 教育指導管理事務費
-----	----------	-----------	-----------	-----------------

1 この仕事の目的	① 誰（何）を対象にしていますか。 主に小学校4年生及び進学による戸惑いが起こる中学校1年生	→	① ①の対象数や量を、あらわすもの（対象指標） 児童生徒数
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 児童・生徒の授業でのつまづきを防ぎ、基礎学力を定着させることで、基礎的な学力向上を図る。	→	② ②の状態になった数・量をあらわすもの（成果指標） 実態調査による「協力指導員（チームティーチャー）がいることによって、児童・生徒の授業でのつまづきを防ぎ、基礎学力を定着させることで、基礎的な学力向上を図ることができたか。」に「十分図ることができた」「どちらかといえば、できた」の数値（%）
	③ そのために何をしましたか。 小学校及び中学校の教員資格を有する者を嘱託員（チームティーチャー）として委嘱し、各小・中学校の担任教員と協力して同じ教室で授業を行っている。	→	③ ③をどのくらい行いましたか（活動指標） ㊦ 配置校数、㊦ 配置時間

		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標	
2 指標の推移	対象指標	①の数値	人	6,751	6,612	6,562		
	成果指標	②の数値	%	93	95	95		
	目 標	②の目標値	%			100	100	100
		目標設定の考え方	全校が基礎学力の定着を図ることができている状態を目指す。					
活動指標	③の数値	㊦校 ㊦時間	㊦15 ㊦10,130	㊦15 ㊦10,546	㊦15 ㊦11,026.5			

3 経費	事業費（実績）	円	20,260,000	24,109,638	19,537,053	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費（再任用職員以外） 年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。（退職手当組合負担金、共済費も含む。）	
	財源	一般財源	円	20,260,000	24,109,638		19,537,053
		特定財源	円				
		（うち受益者負担）	円				
	人件費（目安）	所要人数（再任用以外）	人	0.05	0.05		0.05
		所要人数（再任用）	人				
	職員人件費（再任用以外）	円	413,350	412,650	412,200		
	職員人件費（再任用）	円					
	事業費＋人件費	円	20,673,350	24,522,288	19,949,253		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期（開始年度）、何を目的に開始していますか。 平成27年度から、市内の小・中学校児童・生徒の学力向上のため、担任教員と協力して同じ教室で授業を行う協力指導員（チームティーチャー）を配置した。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 東大和市学力調査の結果、正答率の全国差が縮まっている。

仕 事 の 内 容	協力指導員（ティームティーチャー）配置事業				
担当部署・課長名	教育指導	課	指導	係	課長名 佐藤 洋士

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について				

6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）				
	取り組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）		
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点				

7 課題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題（2）」の内容  予算額が不足しており、学校のニーズにこたえきれていない部分がある。				
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。  予算の増額が困難であったため、限られた時間（予算）の中でより成果を出すために、研修会を実施し協力指導員の能力を向上を図った。				
	(3)(2)を踏まえた今後の課題  協力指導員の能力の向上を図る。				

8 今後の方向性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など） 引き続き、年1回の研修会を実施することで、学校の運営方針に則した児童生徒指導が行えるよう指導するとともに、協力指導員が情報交換等を行うことで互いに能力を高めていけるよう促す。				
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 情報交換会は指導主事を中心に実施するため、情報を共有する等、協力して実施する必要がある。				
	(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。				
成果	成果を向上させる。			経費	仕事の経費は維持する。